

令和5年度看護学部授業評価集計結果

看護学部教務委員会
教育評価・研修部会

1. 概要

岩手医科大学看護学部では、看護学教育の合理的・効果的な実施と教育環境の経時的・合目的改善と外部評価に耐えうる教育の自主的評価の確立を目的として、看護学部第2学年以降に開講する科目ならびに基礎看護学実習を対象とした学生による授業評価を実施した。

授業評価は、原則として全ての授業科目を対象とする「学生による授業科目全体に関する評価」、1科目3回以上授業を担当する教員を対象とする「学生による教員に関する評価」ならびに全ての臨地実習科目を対象とする「学生による臨地実習に関する評価」の3項目で実施した。

授業評価実施後は、当該科目における次学期以降の授業計画や学生指導を見据えた振り返りとして、各実施主体者から看護学部長へ「学生の授業評価に対するフィードバック」を提出したほか、当該年度に実施した各授業評価における上位3科目および3教員については、当該実施主体者の了承を得たのち表彰し、学生へ公表した。

なお、基礎看護学実習以外の看護学部第1学年で開講した科目については、本学教養教育センターによる授業評価を実施した。

2. 実施状況

(1) 「学生による授業科目全体に関する評価」

各科目責任者が「学生による授業科目全体に関する評価」の実施主体者となり、令和5年度に看護学部第2・3・4学年で開講した全ての授業科目（IPE関連科目を除く）で実施した。

■ 看護学部第2学年

No.	学期	科目名	区分	No.	学期	科目名	区分
1	前期	薬理学	必修	2	前期	臨床心理学	必修
3	通期	疾病論Ⅰ（内科系総論）	必修	4	前期	疾病論Ⅱ（外科系総論）	必修
5	後期	疾病論Ⅲ（各論）	必修	6	後期	疾病論Ⅳ（展開論）	必修
7	前期	看護過程演習	必修	8	前期	地域・在宅看護学概論	必修
9	前期	成人看護学概論	必修	10	前期	老年看護学概論	必修
11	前期	小児看護学概論	必修	12	前期	母性看護学概論	必修
13	前期	精神看護学概論	必修	14	後期	地域・在宅看護方法論	必修

15	後期	成人慢性期看護方法論	必修	16	後期	成人急性期看護方法論	必修
17	後期	成人慢性期看護学演習	必修	18	後期	老年看護方法論	必修
19	後期	小児看護方法論	必修	20	後期	母性看護方法論	必修
21	後期	精神看護方法論	必修	22	後期	医療安全論	必修
23	後期	緩和ケア論	必修	24	前期	医療英語	必修
25	後期	日本国憲法	選択				

※全 25 科目で実施

■ 看護学部第3 学年

No.	学期	科目名	区分	No.	学期	科目名	区分
1	前期	公衆衛生学・疫学	必修	2	前期	保健統計学	必修
3	前期	看護倫理学	必修	4	前期	成人看護学演習Ⅱ	必修
5	前期	老年看護学演習	必修	6	前期	小児看護学演習	必修
7	前期	母性看護学演習	必修	8	前期	精神看護学演習	必修
9	前期	地域看護学Ⅱ	必修	10	前期	地域看護学方法論	必修
11	前期	地域看護学展開論	必修	12	前期	在宅看護学演習	必修
13	前期	医療情報論	選択	14	前期	先端医療論	選択
15	前期	災害医療論 ※4年次履修を含む	選択	16	前期	保健医療福祉行政論	選択
17	後期	公衆衛生看護方法論	選択	18	後期	公衆衛生看護展開論	選択
19	前期	助産学概論	選択	20	後期	助産診断技術学Ⅰ	選択
21	後期	助産診断技術学Ⅱ	選択	22	後期	助産診断技術学Ⅲ	選択
23	後期	臨床微生物・感染症学 ※4年次履修を含む	自由	24	後期	感染制御・感染看護演習 ※4年次履修を含む	自由

※全 23 科目（履修生がいない「医療情報論」は除く）で実施

■ 看護学部第4 学年

No.	学期	科目名	区分	No.	学期	科目名	区分
1	前期	看護政策論	必修	2	前期	看護管理学	必修
3	前期	看護研究	必修	4	前期	家族ケア論	選択
5	前期	看護教育論	選択	6	前期	メンタルヘルスケア論	選択
7	前期	公衆衛生看護管理論Ⅰ	選択	8	前期	公衆衛生看護管理論Ⅱ	選択
9	前期	助産診断技術学Ⅳ	選択	10	前期	助産診断技術学Ⅴ	選択
11	後期	地域母子保健	選択	12	後期	助産管理学	選択
13	後期	看護研究実践演習	自由				

※全 13 科目で実施

(2) 「学生による教員に関する評価」

各教員が「学生による教員に関する評価」の実施主体者となり、令和5年度に看護学部第2・3・4学年で開講した授業科目において、44名の教員が実施した。

＜内訳＞ 看護学部専任教員・・・・・・・・・・29名

看護学部以外の本学専任教員・・・・・・・・15名

(3) 「学生による臨地実習に関する評価」

各科目責任者が「学生による臨地実習に関する評価」の実施主体者となり、令和5年度に看護学部で開講した全ての臨地実習科目で実施した。

No.	学年/学期	科目名	区分
1	第1学年/後期	基礎看護学実習	必修
2	第2学年/後期	基礎看護過程実習	必修
3	第3学年/後期～第4学年/前期	領域別実習	必修
4	第4学年/後期	統合看護実習	必修

3. 回答および集計方法

学生は、無記名式のWeb上の評価入力用ページを用い、各設問および意見欄について、以下の5段階および記述により回答を行った。教務課は、設問項目毎の単純集計ならびに自由記載欄のコメントの転記を行い、各実施主体者に集計結果を通知した。

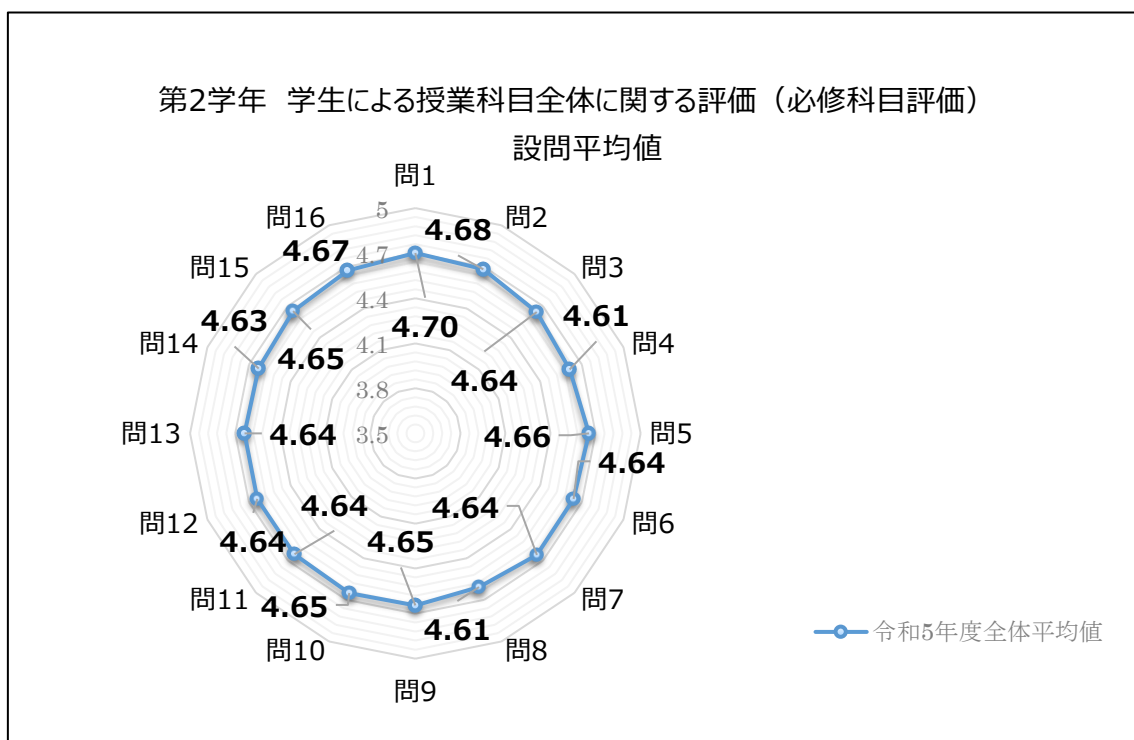
1	2	3	4	5
全く思わない	あまり思わない	どちらともいえない	やや思う	非常に思う
非常に悪い	← 悪い	どちらともいえない	→ 良い	非常に良い

4. 集計結果（令和5年度より設問を変更したため、当該年度のみ表示）

（1）「学生による授業科目全体に関する評価」

■看護学部第2学年（必修24科目で実施）

	設問	令和5年度 平均値	令和5年度 SD
問1	教員の熱意が感じられた。	4.70	0.15
問2	授業はよく準備がなされていた。	4.68	0.17
問3	話し方は聞き取りやすかった。	4.64	0.19
問4	授業の板書、スクリーンやモニター表示は見やすかった。	4.61	0.17
問5	授業の配布資料・教科書などは適切だった。	4.66	0.16
問6	授業内容をわかりやすく伝える工夫が見られた。	4.64	0.18
問7	学生の能動的な受講を促す工夫が見られた。	4.64	0.18
問8	授業は開始時刻や講義時間など、予定時間を守って行われた。	4.61	0.22
問9	授業は学生の理解に合わせて進められた。	4.65	0.17
問10	学生の質問や意見を聴く機会が設けられた。	4.65	0.18
問11	授業の内容の連動性・分量・難易度は適切であった。	4.64	0.15
問12	学修意欲が刺激される授業内容であった。	4.64	0.17
問13	シラバスに記載された授業計画・到達目標は適切だった。	4.64	0.13
問14	この授業の総合評価を示してください。	4.63	0.17
問15	質問・発言・議論・自習などにより、この授業に積極的に取り組んだ。	4.65	0.14
問16	シラバスに記載されている、事前・事後学修に取り組んだ。	4.67	0.15

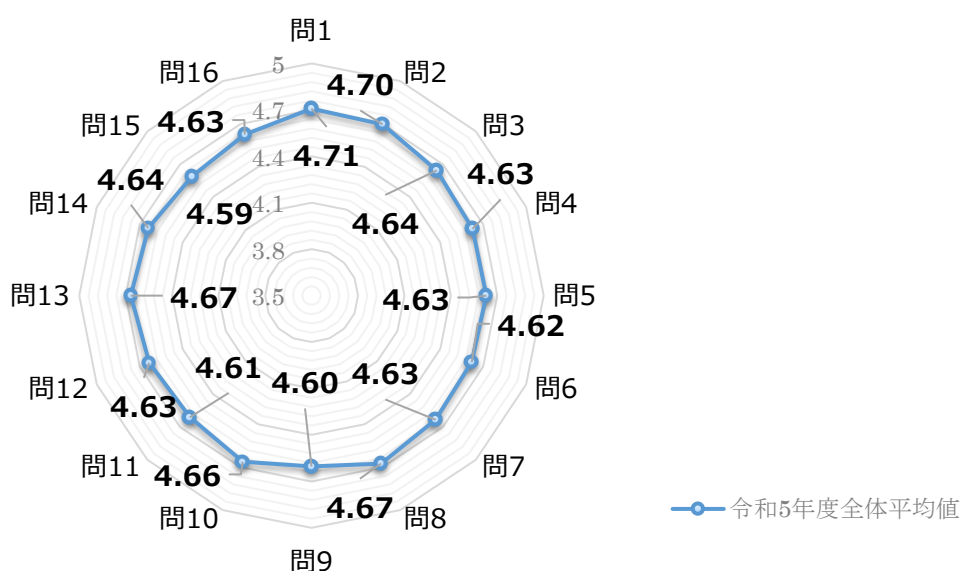


■看護学部第3学年（全22科目で実施）

※臨床微生物・感染症学は3年次履修者が0名のため集計から除外する。

	設問	令和5年度 平均値	令和5年度 SD
問1	教員の熱意が感じられた。	4.71	0.16
問2	授業はよく準備がなされていた。	4.70	0.15
問3	話し方は聞き取りやすかった。	4.64	0.18
問4	授業の板書、スクリーンやモニター表示は見やすかった。	4.63	0.18
問5	授業の配布資料・教科書などは適切だった。	4.63	0.17
問6	授業内容をわかりやすく伝える工夫が見られた。	4.62	0.19
問7	学生の能動的な受講を促す工夫が見られた。	4.63	0.20
問8	授業は開始時刻や講義時間など、予定時間を守って行われた。	4.67	0.17
問9	授業は学生の理解に合わせて進められた。	4.60	0.17
問10	学生の質問や意見を聴く機会が設けられた。	4.66	0.17
問11	授業の内容の連動性・分量・難易度は適切であった。	4.61	0.16
問12	学修意欲が刺激される授業内容であった。	4.63	0.18
問13	シラバスに記載された授業計画・到達目標は適切だった。	4.67	0.14
問14	この授業の総合評価を示してください。	4.64	0.16
問15	質問・発言・議論・自習などにより、この授業に積極的に取り組んだ。	4.59	0.18
問16	シラバスに記載されている、事前・事後学修に取り組んだ。	4.63	0.17

第3学年 学生による授業科目全体に関する評価 設問平均値

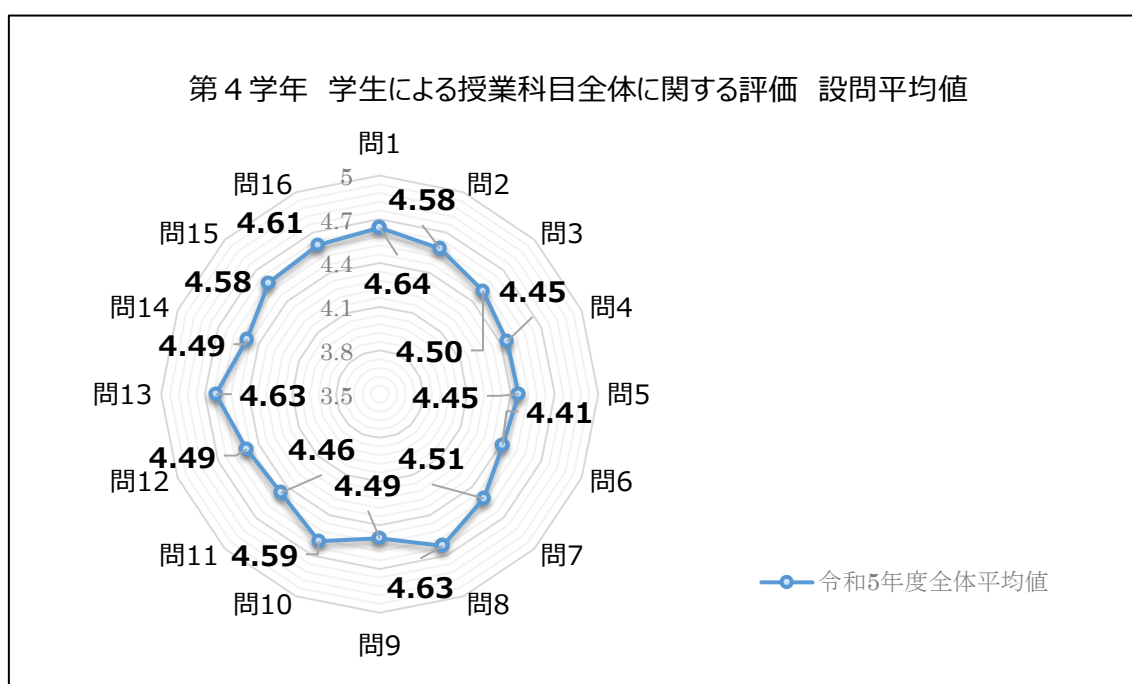


■看護学部第4学年（全12科目で実施）

※臨床微生物・感染症学および看護研究実践演習は4年次履修者が5名未満のため集計から除外した。

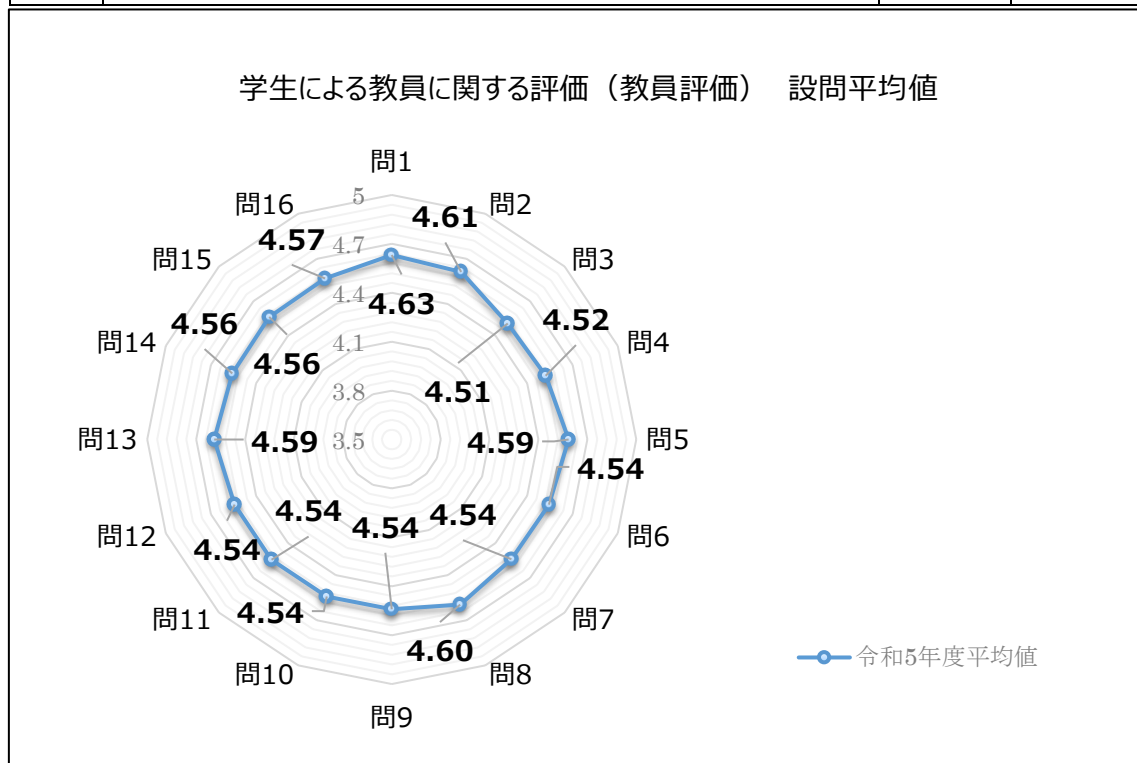
※感染制御・感染看護学演習および災害医療論の4年次履修者は3年次の集計に含めた。

	設問	令和5年度 平均値	令和5年度 SD
問1	教員の熱意が感じられた。	4.64	0.17
問2	授業はよく準備がなされていた。	4.58	0.21
問3	話し方は聞き取りやすかった。	4.50	0.27
問4	授業の板書、スクリーンやモニター表示は見やすかった。	4.45	0.25
問5	授業の配布資料・教科書などは適切だった。	4.45	0.22
問6	授業内容をわかりやすく伝える工夫が見られた。	4.41	0.31
問7	学生の能動的な受講を促す工夫が見られた。	4.51	0.29
問8	授業は開始時刻や講義時間など、予定時間を守って行われた。	4.63	0.29
問9	授業は学生の理解に合わせて進められた。	4.49	0.27
問10	学生の質問や意見を聴く機会が設けられた。	4.59	0.24
問11	授業の内容の連動性・分量・難易度は適切であった。	4.46	0.21
問12	学修意欲が刺激される授業内容であった。	4.49	0.32
問13	シラバスに記載された授業計画・到達目標は適切だった。	4.63	0.15
問14	この授業の総合評価を示してください。	4.49	0.25
問15	質問・発言・議論・自習などにより、この授業に積極的に取り組んだ。	4.58	0.21
問16	シラバスに記載されている、事前・事後学修に取り組んだ。	4.61	0.21



(2)「学生による教員に関する評価」(令和5年度：44名が実施)

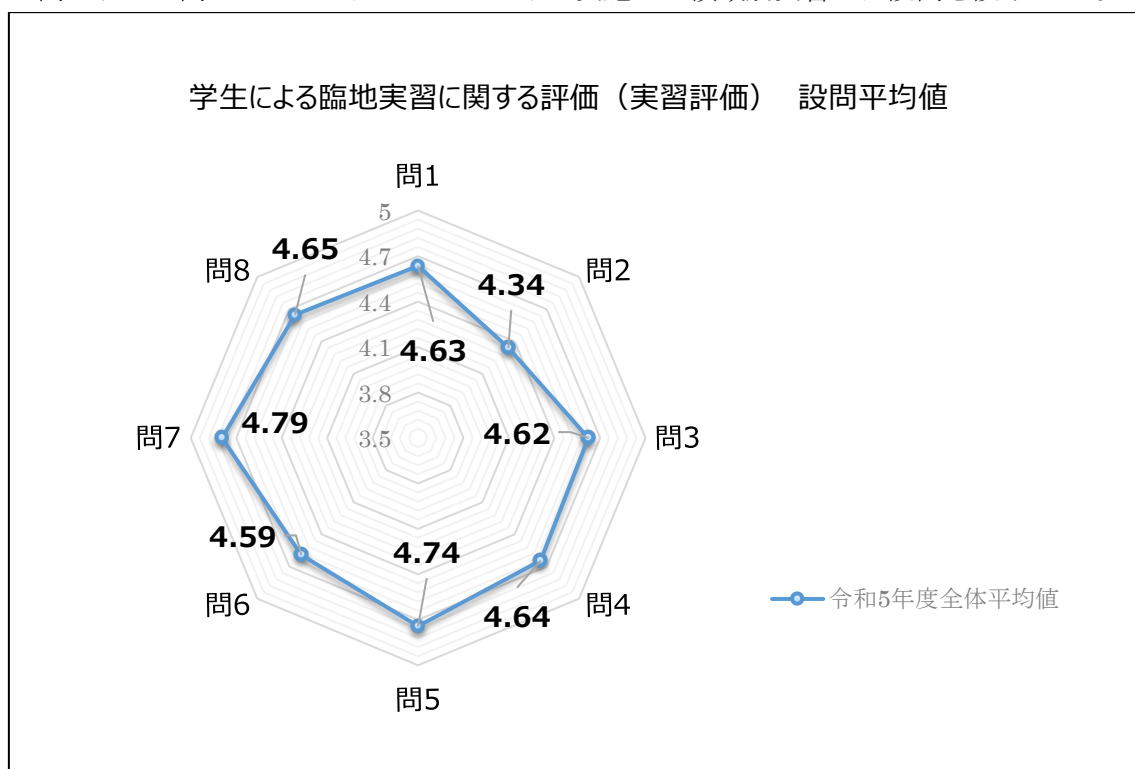
	設問	令和5年度 平均値	令和5年度 SD
問1	教員の熱意が感じられた。	4.63	0.22
問2	授業はよく準備がなされていた。	4.61	0.24
問3	話し方は聞き取りやすかった。	4.51	0.30
問4	授業の板書、スクリーンやモニター表示は見やすかった。	4.52	0.28
問5	授業の配布資料・教科書などは適切だった。	4.59	0.23
問6	授業内容をわかりやすく伝える工夫が見られた。	4.54	0.28
問7	学生の能動的な受講を促す工夫が見られた。	4.54	0.27
問8	授業は開始時刻や講義時間など、予定時間を守って行われた。	4.60	0.27
問9	授業は学生の理解に合わせて進められた。	4.54	0.31
問10	学生の質問や意見を聴く機会が設けられた。	4.54	0.25
問11	授業の内容の連動性・分量・難易度は適切であった。	4.54	0.30
問12	学修意欲が刺激される授業内容であった。	4.54	0.29
問13	シラバスに記載された授業計画・到達目標は適切だった。	4.59	0.20
問14	この授業の総合評価を示してください。	4.56	0.27
問15	質問・発言・議論・自習などにより、この授業に積極的に取り組んだ。	4.56	0.19
問16	シラバスに記載されている、事前・事後学修に取り組んだ。	4.57	0.19



(3) 「学生による臨地実習に関する評価」(全 13 科目で実施)

	設問	令和5年度 平均値	令和5年度 SD
問1	実習を円滑に行うために、オリエンテーションは役立った。	4.63	0.14
問2	自学自修の時間を確保できる実習スケジュールであった。	4.34	0.33
問3	シラバスや実習要項に記載された内容・到達目標は適切であった。	4.62	0.15
問4	グループの学生同士、協力して学修できた。	4.64	0.26
問5	看護職を目指す意欲が刺激された。	4.74	0.14
問6	実習の総合評価を5段階で示してください。	4.59	0.22
問7	この実習に積極的に取り組んだ	4.79	0.16
問8	シラバスに記載されている、事前・事後学習に取り組んだ。	4.65	0.17

※問7および問8についてはマークシートで実施した領域別実習では設問を設けていない。



5. 各授業評価における上位3科目および上位3教員

(1) 「学生による授業科目全体に関する評価」

順位	学年/学期	科目名	授業形態
1	第2学年/前期	薬理学	講義
2	第2学年/前期	母性看護学概論	講義
3	第2学年/後期	精神看護方法論	講義

(2) 「学生による教員に関する評価」

順位	教員名	担当科目
1	野里 同	老年看護学概論
2	塚本 恭正	薬理学
2	佐藤 奈美枝	看護政策論

(3) 「学生による臨地実習に関する評価」

第3学年後期から第4学年前期にかけて開講する領域別実習については、一部の専門領域の臨地実習が年度をまたいで開講するため、全ての評価が出揃った後、公表することとしている。

順位	科目名	学年/学期
1	統合看護実習	第4学年/後期
2	老年看護学実習	第3学年/後期 ～ 第4学年/前期
3	成人看護学慢性期・回復期実習	第3学年/後期

以上